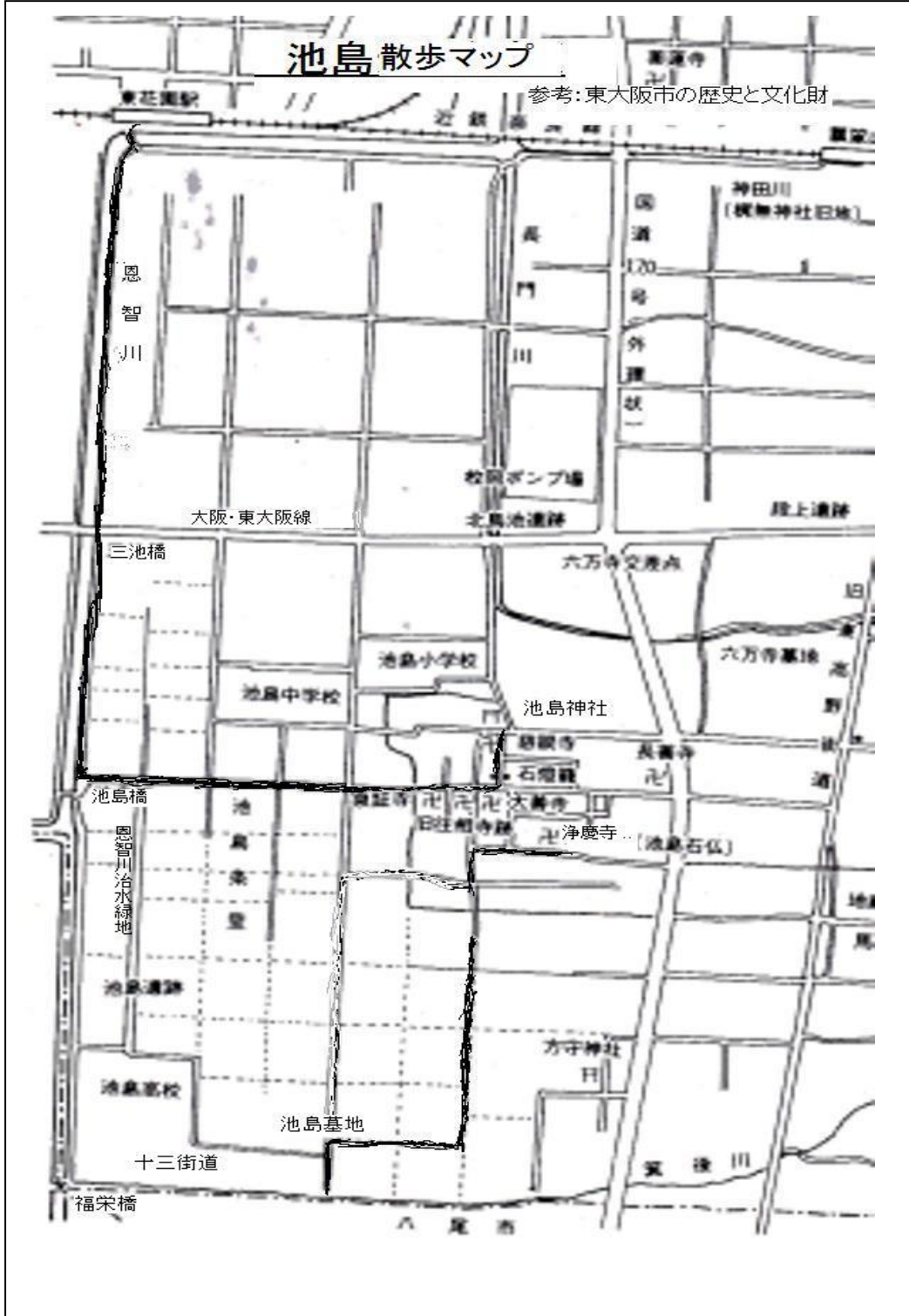


東大阪・池島界隈を散策する

コース : 恩智川→恩智川治水緑地(野鳥天国)→池島環濠集落→池島神社→玉子屋円辰・岡田政太郎→浄慶寺と池島石仏→池島墓地→十三街道→大坂夏の陣→池島の条理制 →福栄橋 (約3km)



池島環濠集落



恩智川

柏原市高尾山山麓を源として八尾市の東部、東大阪市そして大東市の寝屋川に合流する。昔は大東の深野池に流れ込んでいた。合流する大東市では大雨の際には、たびたび水害をもたらした。昭和48年には大幅に川底の掘削や護岸工事をして「恩智川治水緑地」が整備された。普段は緑地公園として、大幅な増水時は一時的に調整池の役割をする。小学校の時にシジミを採りみそ汁に入れて食べていた。底

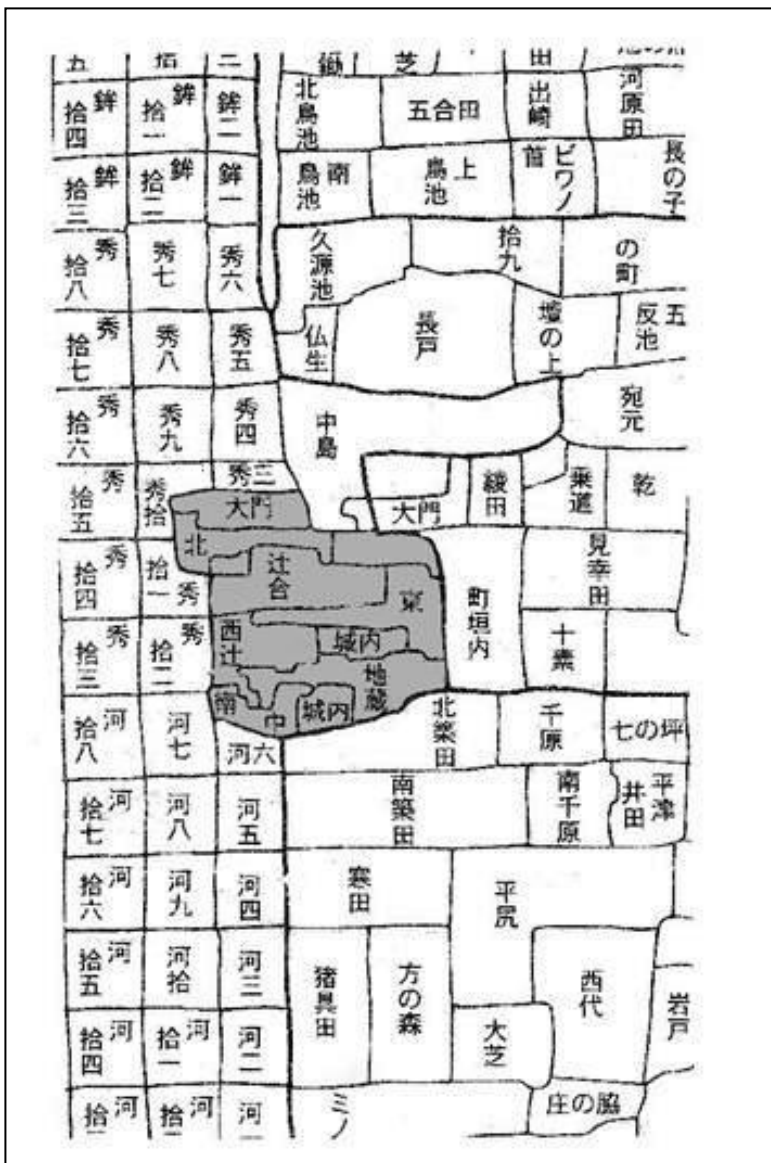


橋西に不時着した米軍機2機
(昭和32年頃)



三池橋から見た生駒山(昭和40年)
東大阪今昔写真帖から

恩智川治水緑地



池島環濠集落

池島は昔、池の島と呼ばれて池の中に浮かぶ島のような島があった。今でも集落は周辺より高くなっている。池島では池島城といわれる城があり、城にちなむ地名、大門、城内などが残っている。城といっても天守閣を備えたものでなく平城で集落の廻りは壕を巡らせており、今も溝として残っている。

池島神社

神社は旧村北側の大門といわれるところにあり、祭神は大山咋命(おおやまくいのみこと)、素盞鳴命(すさおのみこと)で磐長姫(いわながひめ)を祀っている。もと集落の南口に素盞鳴命、北町(現在の

ところ)に大山咋命明治5年に枚岡神社に合祀され、同18年にふたたび分かれて両社を合わせて、村名をとって池島神社となった。

岡田政太郎

明治末から大正にかけての稀代の興行元。岡田政太郎が寄進した灯籠がある。太夫元すなわちいまでいう興行元。中世からの芸能歴史の一端を表している。時の勢力を誇った浪花落語



池島神社に寄進した岡田政太郎の燈籠一対

に反対ののろしを挙げた反対派の指導者。現代の吉本興行の先達で今の吉本興行の成長を大きく助けた人物。池島村の慶応3年(1870)生まれ。残念なことに大正9年に亡くなった。なんでも面白いものをやって安い入場料でお客さんを喜ばせと発破をかけ寄席を次から次と持ち興行元として関西で一番を誇った。吉本泰三とせいは彼に刺激され荒物屋を廃業して寄席に乗り出して岡田政太郎の死(大正9年)により一挙にその寄席を譲り受けた。

“漫才の祖” 玉子屋円辰



岡田政太郎より二年先の慶応元年に生まれたのが玉子屋円辰(本名、西本為吉)。玉子を売っていたが持ち前の美声を生かした江州音頭でたちまち寄席の人気。名古屋万歳を参考に舞台で今でいう“ぼけとつっこみ”式で万歳から漫才へ。花菱アチャコと横山エンタツコンビは有名だがもともと人気抜群の円辰にあやかり人気を博した。いわゆる円辰の名を借りたといってもいい。彼は又偉大な後継者を生み出してきた。その流れの中に夢路いとし、喜味こいしなどがおり、多くの漫才師や音頭取り、歌手を育てた。

浄慶寺と池島石仏



浄慶寺

村の寺田順慶が天文10年(1541)に建立。享保2年(1717)に恵光寺から今の名称に変えた。境内には吉住三河守勝成と岡田政太郎の墓がある。また、池島地藏堂には石仏が祀られており、その周囲には梵字を刻んだ13個の月輪を配した戦国末期の天文15年(1546)の年号が刻んでいる。

池島墓地



玉子屋円辰の墓

芸能にゆかりの玉子屋円辰や岡田政太郎、そしてヤンレ節で有名な玉子屋千代鶴の墓がある。加えて河内地方で盛んだった村相撲

の力士たち(池島は弓ヶ濱が有名))の墓碑が多し。

十三街道



若江の戦い図(若江堤を越える井伊直孝軍と逃げる木村軍)

摂津、河内を通り十三峠を越えて大和の平群に入る古道。元和元年(1615)大坂夏の陣の折には、徳川方の井伊直孝の勇猛で知られる赤鎧備え部隊が花岡山から豊臣方の木村重成が待つ若江堤の決戦場へ向かった歴史豊かな街道。伊能忠敬も文化4年(1807年)測量のためこの十三街道を歩いて大和に向かった。

池島の条理制

ここからも見えるように一町四方に碁盤の目のように田畑は区切られて条理制が今でもうかがわれる。発掘調査によると平安時代に形成。



供養石碑

恩智川の福栄橋

傍に残る供養石碑。

この供養碑はもとの橋が寛政12年(1800)年に大雨に流された橋の供養碑で橋の親柱の下には人柱の代わりの人形があったという



明治9年に架けられた福栄橋(八尾山本第2公園にて保存)